

7. 発展的広域化

近年の広域化事例

会津若松市

【5】 No.61 水道 あいづわかまつ 平成21年6月1日

湯川村への水道水供給について

昨年9月に隣接する湯川村から水道水の供給について依頼があり、平成22年度からの供給に向けた作業を進めます。

○湯川村の依頼理由

水源である浅井戸の水位低下や施設の老朽化により、新たな取水施設及び浄水施設の整備が必要とされていますが、広域的な観点からは、会津若松市水道事業から水道水の供給を受ける手法によることが費用対効果の点で優るものとされています。

○会津若松市として供給すべきと判断した理由

湯川村からの支援要請に応えることは、地域全体において将来にわたる安全で安定した給水を確保するため、大きな意義を持っており、会津の中核都市としての本市の役割を果たすことにつながるものです。

また、水道事業の基盤強化や効率化を図るため、水道事業の広域化を進めている国の施策にも沿うものです。

平成23年4月から湯川村の水道事業は、会津若松市の水道事業に統合

鉏路市

鉏路市から鉏路町への分水解消のため、鉏路市と鉏路町の事業統合に向け、平成23年8月29日に事業統合に関する基本的な事項を定めた基本協定を締結し、平成25年4月1日に事業統合した。

茨城県南水道企業団

龍ヶ崎市・牛久市・取手市（小堀地区を除く）へ水道水を供給する広域水道企業団が、平成24年4月から利根町を事業統合した。

中核となる水道事業が事業統合する事例